

都道府県番号	18
都道府県名	福井県

()

学校名及び規模

武生市武生東小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	18
児童数	46	64	46	63	47	48	4	318	

実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

<p>・主題（テーマ） 「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる子をめざして」</p> <p>・テーマ設定の趣旨 校訓「進修」のもと、創立以来、あらゆる教育活動によって形成される児童の望ましい資質や言動に関わる教育指導目標を「めざす児童像」とし、また、その目標達成のための条件整備や組織運営に関わる学校経営目標を「めざす学校像」として日々の教育活動を実践している。その、具現化のため児童の実態に即しながら、「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる子をめざして」という研究主題を設定し教科担任制の導入を核に「確かな学力の向上」の実現に向けた実践研究の推進に努めている。</p>

実践研究の内容

() 研究体制の工夫

毎週月曜日を職員の現職教育日として設定し、全体研修会、学年部会、専門部会、学力向上フロンティア推進委員会を計画し、研究主題の解明に努めている。専門部会では、メディアリテラシー育成部会、地域連携推進部会、学習環境・評価研究部会を設けそれぞれの立場で研究を深めている。全体研修会では、研究全般について協議し、職員の共通理解を図っている。学年部会では、研究推進委員会、専門部会、学力向上フロンティア推進委員会等の提案事項及び全体研修会の検討事項を受けて、研究実践を行っている。

() 実践研究の内容

(1) 評価規準について（作成状況）

各教科主任を中心に単元ごとに評価規準を作成し、その実践にあたってきた。その中で、1時間の授業の中での評価項目が多すぎることで、教師が実際に使う場合に利用しやすい具体性のあるものが必要との反省から、現在見直しを図っている段階である。下記のように、年間学習指導計画と評価規準が一覧となったものを作成

中で、より客観性のある評価規準を作成していきたいと考えている。

(2) 評価規準表の見本例

第5学年国語科 年間指導計画・評価規準 (抜粋)

月	教材名	ねらい	主な活動	時数	評価規準
4	新しい友達	・主人公の心情や、場面の變化を叙述に即して読み取ることができる。	・全文を読み、登場人物の気持ちを考えて感想を書き、交流する。	1	教材文に興味をもち、登場人物と自分を重ねながら読んだり書いたりすることができる。 「ひろ」に対する思いを中心に、感想を書くことができる。
			・場面ごとの情景や人物の心情の変化を読み取り、作品を味わう。	2	「ひろ」の気持ちの変化を、時間の経過や出来事と関連させてとらえることができる。
				3	クロッカスの役割を考えると、一番心に残ったところについて話し合うことができる。
		・登場人物にあてた手紙を書いて、読んで考えたことを効果的に表すことができる。	・登場人物に対して手紙を書く。	4	友達についての自分の考えを登場人物あてに手紙形式で書くことができる。

(観点 関心・意欲・態度 話す・聞く 書く 読む 言語に対する知識・理解・技能)

(3) 教科担任制のよさを生かした評価の実践事例

<実践事例1> 第5学年算数科 面積 (算数専科教員と担任によるT・Tの授業)

評価計画

観点	評価規準
関心・意欲・態度	三角形，平行四辺形の求積の学習という課題をつかみ、進んで問題を解決しようとする。 発展的な問題づくりに関心を持ち、進んで取り組もうとする。
数学的な考え方	三角形，平行四辺形の求積の仕方を考えることができる。 三角形の求積公式について、関数的な見方をすることができる。
表現・処理	三角形，平行四辺形の求積公式を使って、面積を求めることができる。 四角形の面積を工夫して求めることができる。
知識・理解	三角形や平行四辺形の「高さ」「底辺」が理解できる。 三角形や平行四辺形の求積公式の意味を理解できる。

本時の流れ

本時では、前時までの学習をもとにして平行四辺形の面積を求める学習をした。まず、

平行四辺形を分けたり変形させたりして、既習の知識を生かして、個々に面積の求め方を工夫した。そして、同じ考え方をしている友達とグループになり、考え方の違うグループに説明することによって、同じ面積を求める時にも多様な考え方があることを確かめ合った。ここでの学習を元にして、次時で平行四辺形の公式を導き出した。

評価がその後の指導にどう生かされたか

- ・平行四辺形の面積を求める方法について、互いに教え合うことによって多様な見方や考え方ができることがわかり、児童の思考が広がった。いろいろな考え方を認めることで、図形に対する児童の興味・関心も深まった。
- ・自分の考え方を説明することによって、より確かなものにすることができた。友達や先生に聞いてもらい、わかりにくいところを補うことで、自分の理解も深まった。
- ・評価規準にしたがって、規準に達していない子をチェックしていき、評価の低い児童に対しては、その時間の中で支援や助言を加えたり、授業後に個別指導をしたり、次時のはじめにさらに説明を加えるなどして、単元の中で規準に達するようにした。
- ・T・Tで取り組んでいることにより、一人ひとりに十分に関わることが可能になり、考えがまとまらない児童にも適切なアドバイスをすることができた。どの子も自分の考えを持って話し合いに参加しており、学習への関心が深まった。

< 実践事例 2 > 第 6 学年体育科 Let ' s Dance ! (表現運動) (5 年担任・体育専科教員による授業)

評価計画

観点	評価規準
関心・意欲・態度	自分自身で積極的に活動に取り組んでいこうとする。 グループの一員として、メンバーと協力して積極的に活動に取り組んでいこうとする。
思考・判断	1対1の見せ合いを通じて、一人一人が動きを工夫した表現を考えることができる。 グループ内の話し合いを通じて、一人一人が動きを工夫した表現を考えることができる。 グループ間の見せ合いやビデオを通じて、一人一人が動きを工夫した表現を考えることができる。
技能	体全体を有効に使ったリズムカルな表現ができる。 変化に富んだリズムカルな表現ができる。

本時の流れ

本時の前半では、グループで考えた表現を楽しむことに目あてをおいた。後半では、グループ間の交流を通じて、お互いに良い点、もっと工夫したらよい点、その他の感想などの意見を交換し合った後、その意見をもとにグループの動きをさらに工夫するためにはどうしたらよいか話し合い、より工夫した表現を楽しむことに目あてをおいた。

評価がその後の指導にどう生かされたか

評価は授業中の活動の様子、グループ間の交流での意見交換やグループ内での話し合いの様子、自己評価などを書いた学習カードを参考にして行った。特に、評価規準に達していないと思われる児童・グループについては次のような支援を行った。関心・意欲

・態度については、授業中に励ましたり、授業後、学習カードに励ましの言葉を加えたりした。思考・判断については動きの工夫の仕方やその例を書いたヒントカードを与えたり、グループ間の交流に参加して他の児童が指摘していない助言をしたりした。また、交流後の話し合いで、どうしてもよいアイデアが思い浮かばないグループにはその話し合いに参加して助言を与えたり、他の学級のアイデアを紹介したりした。技能については、動きの注意点を書いたヒントカードを与えたり、実際に教師が試演したりした。その結果、ほとんどの児童が評価規準に達することができた。また、全校での発表会をすることで、学級を越えた児童同士の相互評価ができた。さらに、この発表会が5年生の来年度の意欲づけになったり、6年生のダンスを業間体育時の全校ダンスに取り入れ全校で楽しんだり、この単元に対する学年を越えた興味・関心の高まりが見られた。

() 成果と課題

成果

- ・ 同学年の一教科を一人で担当していると、学級の枠にこだわらず、学年で交流させながら学習を進めることができ、より刺激し合い、学習の質を高めることができる。相互評価も高まった。たとえば、国語では、短歌やスピーチなどの作品紹介において、学級の枠を解いた活動を行ったところ、児童の興味・関心が高まってよりよいものが生まれた。

社会では、調べ学習やまとめ学習をしていくとき、2つのクラスで補い合っより完成された学習をすることができる。クラスによって思いや考え方が偏ることもあるので、それを学年全体で修正したり、広げたりしてクラスの中だけでは高まらないものもより高い評価のものに引き上げることができた。

- ・ 学年全体を見ているので、教師はより客観的な評価をすることができる。

課題

- ・ 一つの学年を一人で持っているために、評価規準はあっても評価の仕方が固定的になるおそれがある。それを補うためには、ティームティーチング等、複数の教員が指導することで、より客観的な評価ができると考える。そのためには人的配置が必要である。
- ・ 同学年を一人で持っているとも成果に述べたようなことが望めるが、教科担任であってもクラスによって違った者が持っているとも効果は上がらない。それを解消するためにはやはり人的配置が必要かと思われる。

() 成果の普及方策

本校では、学期ごとに保護者、児童の学力向上フロンティア事業に対する意識調査を行い、その結果をホームページ上に公開し情報発信をすることで研究の推進に役立っている。また、日頃の学校の取り組みや子どもの教育活動を広く知ってもらうために、各学年の取り組みをホームページで公開したり、「東っ子ネットワーク」の発行、学校開放・自由授業参観日の設定、各種たよりによる新教育課程にかかわることの説明等を実施したりしながら、保護者、地域、他の小中学校に対して情報発信を行っている。